

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士課程
授業名	腫瘍学特論			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	基礎教育棟 3 階講義室 3 中講義室 3 0 3	
科目区分	専門科目	配当年次	1 年次	
必修・選択の別	選択	単位	1 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	診断時からの緩和ケア、放射線治療、分子標的治療、ゲノム医療、内視鏡診断・治療、ロボット支援手術、呼吸器外科手術、遺伝子検査			
担当教員 （下線：科目責任者）	医	助教 村上恵理子、講師 速水晋也、准教授 南口博紀、 <u>准教授 洪 泰浩</u> 、准教授 月山 淑、准教授 平井慶充、講師 山下泰伸、教授 柑本康夫		
	薬			
授業の概要	内視鏡診断や放射線治療・ゲノム医療・手術などの治療、緩和ケアなど様々な観点からがんに関する最新の知見を学ぶ。また、各臓器別のがんの知識を修得し、地域の保健医療課題の一つであるがん医療について深く考察する能力を養う。			
到達目標	□腫瘍を診断された患者・家族に対する適切な緩和医療の提供ができるようになる。 □放射線の物理学的・生物学的な特性を理解し、放射線治療の適応について説明できる。 □個別化治療や最新の精密医療（Precision Medicine）について理解する。 □がん医療における分子生物学的診断の重要性を高い知識レベルで理解する。 □内視鏡診断と腫瘍に対する内視鏡治療についての現状を理解する。 □泌尿器科領域における開腹手術から腹腔鏡手術・ロボット支援手術への変遷の経緯について理解する。 □呼吸器外科領域における低侵襲手術を中心とした外科治療の進歩を理解する。 □消化器がんに対する遺伝子レベルでの診断・治療の実際を理解する。			
授業計画	1．分子標的治療（村上恵理子／1 回）【10/20 6限】 分子標的治療について標的分子や薬剤作用機序（MOA）を含め最新の個別化治療や精密医療（Precision Medicine）について解説する。 2．消化器がんに対する遺伝子解析方法とその応用（速水晋也／1 回）【10/20 7限】 消化器がんに対する遺伝子レベルでの診断・治療の実際を理解する。 3．放射線治療の基礎（南口博紀／1 回）【10/27 6限】 放射線の物理学的・生物学的な特性について概説し、放射線治療の適応について解説する。 4．ゲノム変異による発癌機構に関する基礎的・臨床的研究（洪 泰浩／1 回）【11/10 6限】 がん医療における分子生物学的診断の重要性を高い知識レベルで理解する。 5．診断時からの緩和ケア提供ががん患者に及ぼす影響（月山 淑／1 回）【11/10 7限】 がん医療における診断時からの緩和医療が患者・家族におよぼす影響を理解し、実践できるように知識を修得する。			

授業計画	6. 呼吸器外科手術の現状と問題点、完全胸腔鏡手術やロボット手術といった最新の話題について（平井慶充／1回）【11/11 6限】 呼吸器外科手術の現状について解説し、低侵襲手術やロボット手術といった最新の話題について解説する。 7. 膵・胆道癌における内視鏡診断・治療（山下泰伸／1回）【11/17 6限】 膵・胆道癌の内視鏡診断・治療について概説し、その鑑別診断、治療法について説明する。 8. 泌尿器科領域におけるロボット支援手術の変遷（柑本康夫／1回）【11/17 7限】 泌尿器科領域において開腹手術から腹腔鏡手術そしてロボット支援手術へと変容してきた経緯につき概説する。
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】授業計画1・4 「新臨床腫瘍学 改訂第7版」 編集：日本臨床腫瘍学会 出版社：南江堂 授業計画8 「ロボット手術マニュアル」 編集：鳥取大学医学部附属病院低侵襲外科センター 出版社：メジカルビュー社